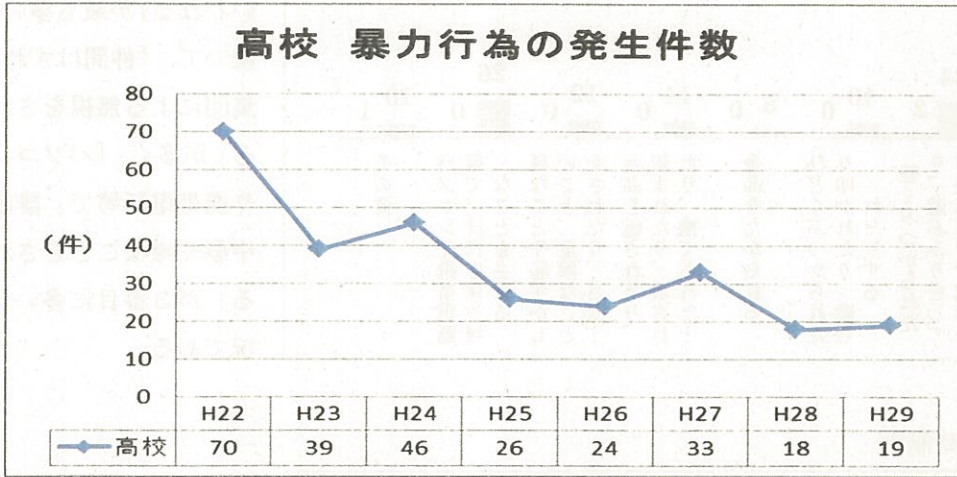


平成 29 年度 生徒指導上の諸課題調査の概要 高校教育課

1 暴力行為

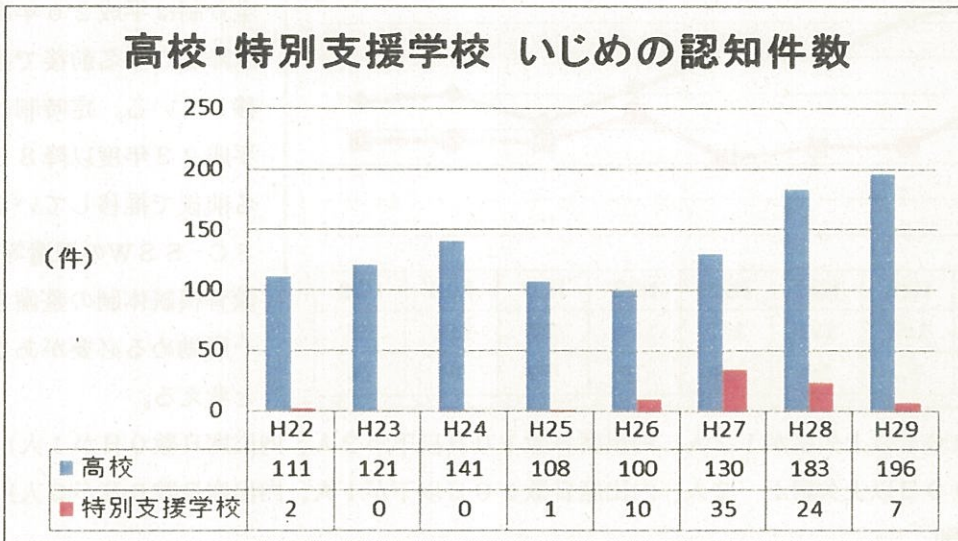


前年度に比べ1件の増加であるが、全体として減少傾向にある。

各高校における生徒指導上の取組が、継続的・効果的に行われている結果であると考えられる。

2 いじめ

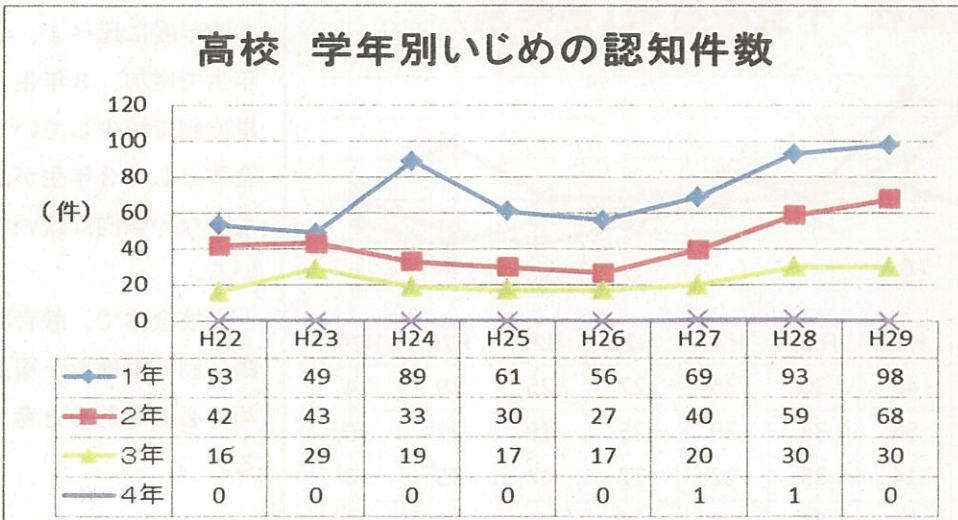
(1) 認知件数 高校・特別支援学校別



高校では認知件数が増加傾向にある。いじめの認知に関して理解が進んできたと考える。

特別支援学校では平成27年度以降、認知件数は減少傾向にある。いじめに対する未然防止が効果的に行われている結果であると考えられる。

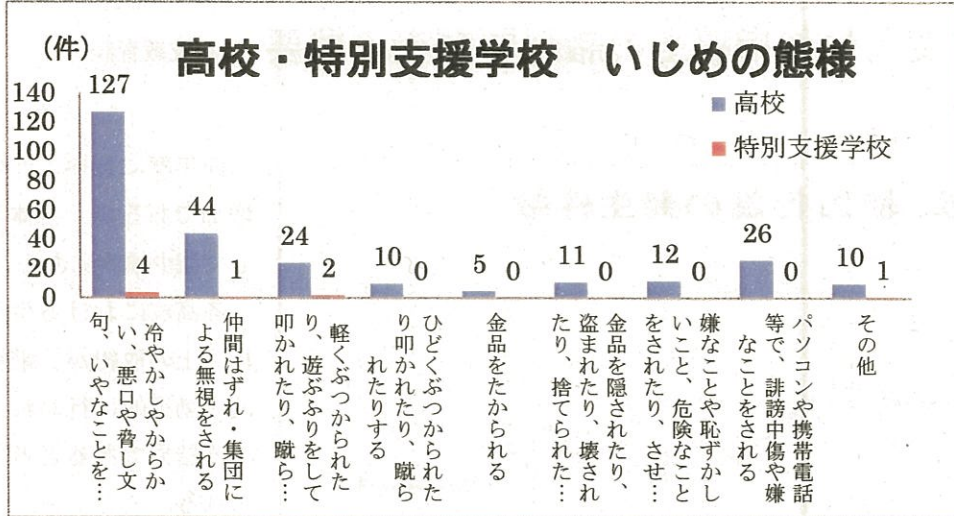
(2) 高校 学年別



1年生が最も多く、学年が上がるとともに減少する状況である。

高校では広範囲な中学校から生徒が集まるため、1年生の時期は人間関係の構築に苦労することが多いと考えられる。

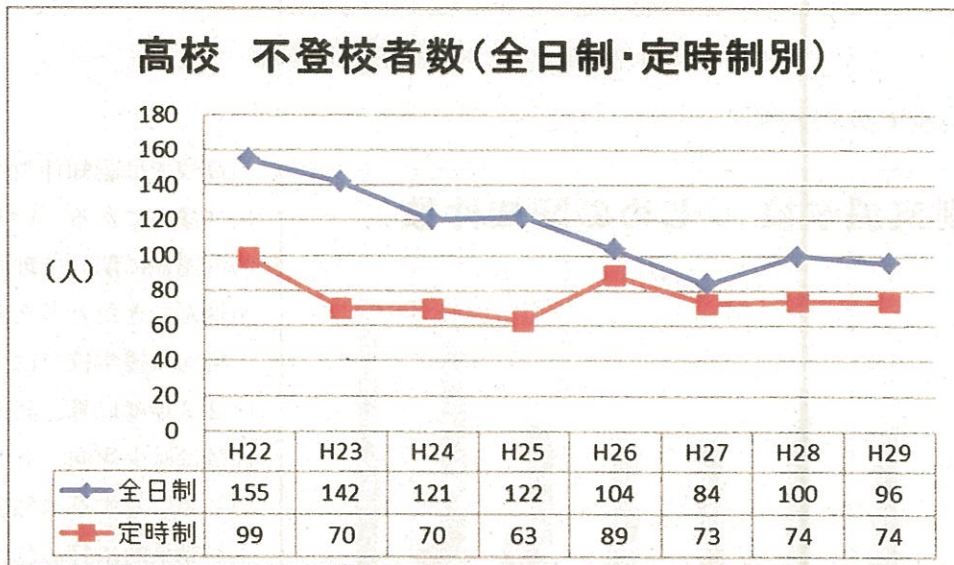
(3) いじめの態様 高校・特別支援学校別



高校では、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことをいわれる」が最も多い。続いて、「仲間はずれ、集団による無視をされる」が多く、「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」が3番目に多い状況である。

3 不登校

(1) 高校 全日制・定時制別

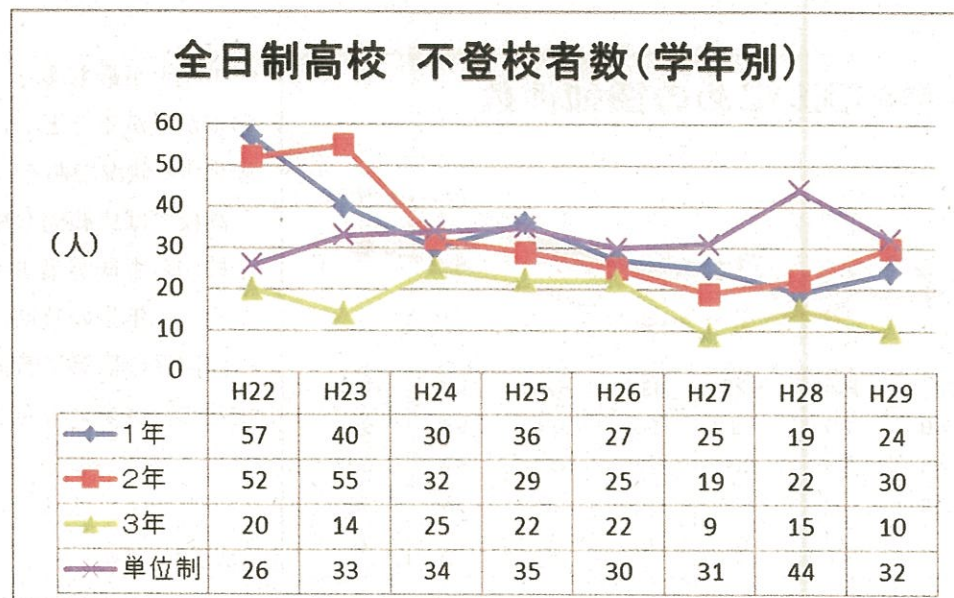


前年度に比べ、全日制は4名の微減、定時制は±0となっている。全日制は平成26年度以降100名前後で推移している。定時制は平成23年度以降80名前後で推移している。SC・SSWの派遣等、教育相談体制の整備を一層勧める必要があると考える。

全日制 96人 (内90日以上欠席が12人、内出席日数10日以下が2人、内出席日数0日が1人)

定時制 74人 (内90日以上欠席が2人、内出席日数10日以下が1人、内出席日数0日が0人)

(2) 全日制高校 学年別

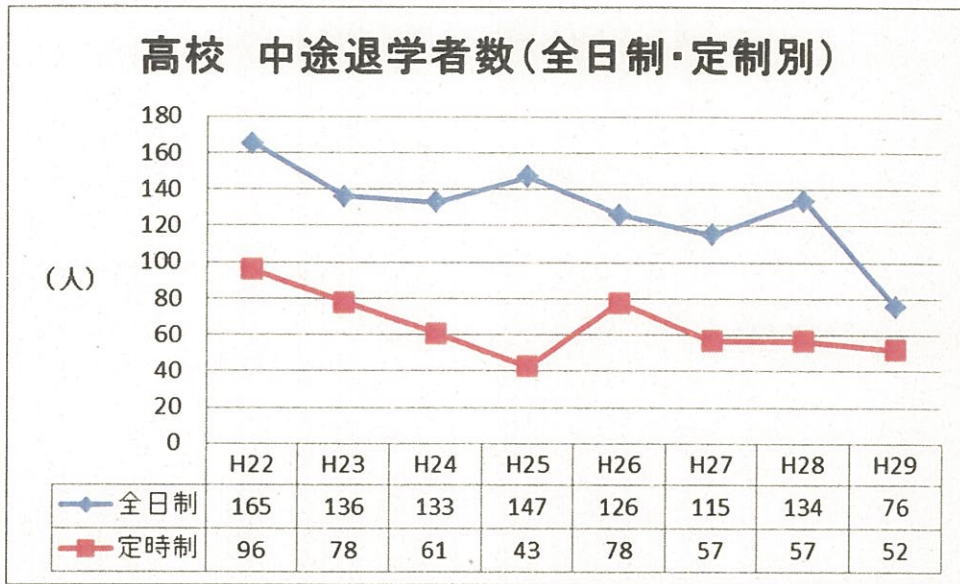


前年度に比べ1、2年生で増加、3年生と単位制で減少している。全体として3年生が最も少ない傾向は続いている。

学校全体で、教育相談体制の整備を一層勧める必要があると考える。

4 中途退学

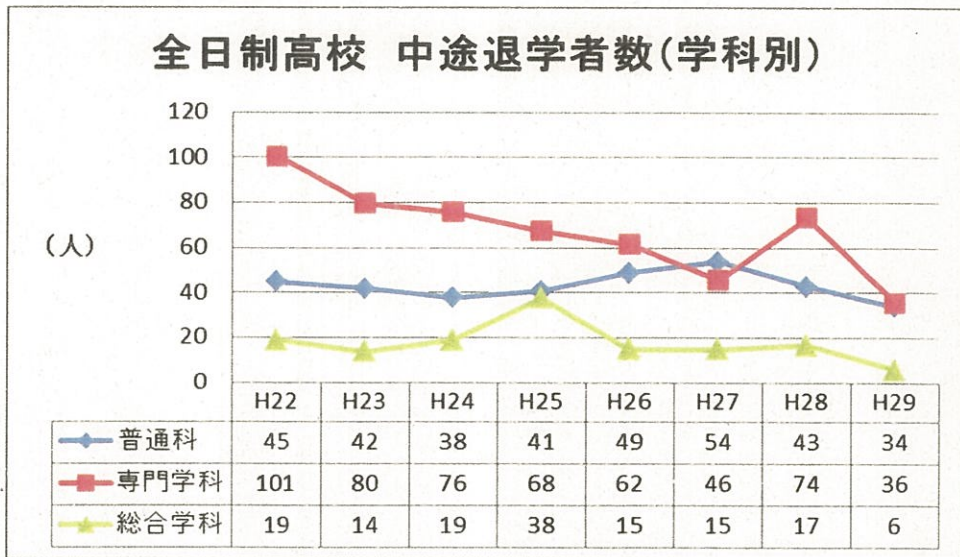
(1) 高校 全日制・定時制別



前年度に比べ、全日制では58名減少、定時制では5名減少であった。

特に全日制においては、教育相談及び生徒指導上の取組が、継続的・効果的に行われてきた結果が現れたと考える。

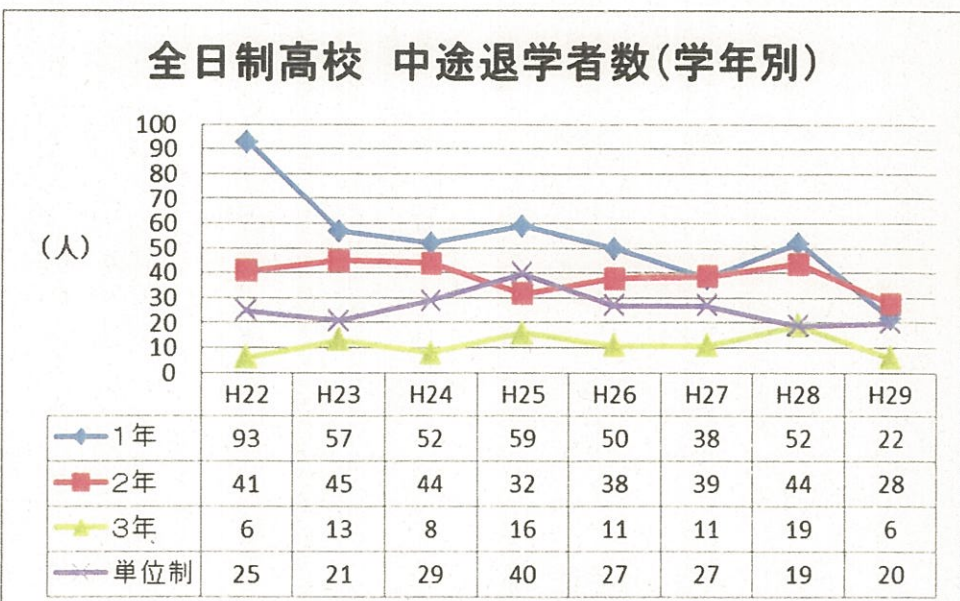
(2) 全日制高校 学科別



全体として減少傾向にある。

前年度、専門学科では、大幅に増加した状況を踏まえ、平成29年度は各専門学科高校において特に教育相談及び生徒指導上の取組に注力した結果と考える。

(3) 全日制高校 学年別



学年が上がるにつれて減少する傾向が続いていたが、前年度に比べて特に1年生の減少数が多い状況は、中学校から高校へ連携が効果的に行われた結果と考えられる。

今後も中学校と情報の共有化を図り、不適応の事前防止に努める必要がある。

